

第3回 ロスマンズ・ファラオ・ラリー

堂々とクラス優勝 シャリオ4WD、パジェロ

灼熱のエジプト、リビア砂漠 4,000 kmを舞台に繰り広げられた第3回ロスマンズ・ファラオ・ラリー。耐久性、悪路走破性を競って、去る10月9日～16日の8日間に渡り開催されました。

このラリーに日本から参加した三菱シャリオ4WD(ドライバー・根本純)、フランスから参加したパジェロが各々、堂々とクラス優勝を果たしました。これは、その優れた耐久性、悪路走破性などの高性能ぶりを存分に発揮した結果です。古代エジプト、ファラオ王の名を冠称したこのラリーは、古代エジプトの数々の遺跡(王家の谷、ルフソール神殿、ラムセス像など)を駆け巡るようにコースが設定されています。その神秘さ、雄大さなどで年々人気が高まっているラリーです。

今回日本から参加したシャリオ4WDは、無改造のまま、しかもサポート車を伴わずにこの過酷なラリーに挑戦し、見事完走。『無改造4WDガソリン車クラス』で優勝を成し遂げました。

同時にヨーロッパから参加したパジェロディーゼルも『改造4WDディーゼル車クラス』で優勝、総合でも6位入賞。三菱の4WD技術の優秀性を実証したのです。



ファラオラリーに日本チームが参加したのは今回が初めてだった

《第3回ロスマンズ・ファラオ・ラリー》

- 開催日——'84年10月9日(火)～10月16日(火)
- 開催場所——エジプト、リビア砂漠 全4,000km(内スペシャルステージ2,080km)
- 参加車両——65台(トラック4台を含む)

●総合成績

1位	アロプロト V8 4WD	6位	三菱パジェロ ディーゼル (改造4WDディーゼルクラス優勝)
2位	メルセデス280GE 4WD		
3位	ルノー 18V6 4WD		
4位	レンジローバー 4WD	22位	三菱シャリオ 4WD (無改造4WDガソリンクラス優勝)
5位	レンジローバー 4WD		

第31回マカオグランプリ

三菱コルト・ジャッキーチェン杯

マカオでワンメイクレース 三菱自動車が開催

11月17、18日の両日開催された第31回マカオグランプリで、ミラージュターボによるワンメイクレースを行ないました。名付けて『ジャッキーチェン・トロフィー』、香港では『三菱力駒成龍盃』と呼称。これは、三菱自動車が海外向けイメージキャラクターとして起用した香港の世界的アクションスター『ジャッキーチェン』の名を冠して開催したものです。

マカオグランプリは、毎年11月中旬に、マカオ市街地の公道を封鎖して行われるもので、世界中から、一流のマ

シン、一流ドライバーが結集。アジア・太平洋地域で最も伝統あるエキサイティングなグランプリレースです。今回のレースドライバーは、このトロフィーにふさわしく、日本を始め、マカオ、オーストラリア、ポルトガル、イギリスなど計6カ国から参加、14名が出場しました。

日本チームは、監督に徳大寺有恒(自動車評論家)ドライバーは、津々見友彦(自動車評論家)、吉田匠(カーグラフィック)、村松康生(週刊プレイボーイ)の強力メンバーでのぞんだ。



マカオの街を走るミラージュターボ

●CMSC福島

菅野会長

若い人を育てたいので、今年は若者対象の練習会(ナビの基本や走りのトライアル)を数多くやりたいです。日程は決まっていますが、スノートライアル、ダートラを開催予定。

●CMSC群馬

荒井会長

今年は、東日本トライアル、群馬シリーズトライアルが主力です。シリーズでは去年より上位をねらいたいと思います。ラリーは若手にがんばってほしいですね。

●CMSC栃木

松本会長

今年はトライアル、C2クラスで2、3台入賞を目指してがんばりたいですね。6月に華国内ラリー、11月にダートラの栃木最終戦を行います。ラリーの方もがんばります。

●CMSC岐阜

水野事務局長

今年も同じように地元ラリーを中心に、高山や長野の山のダートラなどに参加していくつもりです。イベントの開催はありませんが、2月に岐阜県3地区が集まる総会をします。

●CMSC島根

杉坂会長

今年は、なにしろ積極的に活動していこうと思っています。成績もがんばりたくないで、シリーズ戦もバックアップしていきます。夏にはトライアルの1戦を開催する予定です。

●CMSC香川

田中会長

3月23、24日CMSCラリーin香川を手袋祭と共催します。7月CMSCアストロトライアル、11月CMS Cダイヤスターラリーを予定。若い人を育て、四国代表にしたいですね。

'84オールスターラリーフェスティバルIN関西 ラリーアート コルディア4WD実戦デビュー

レポート from ドライバースシート

篠塚建次郎(CMSC本部)

そもそも今回、3年半ぶりのラリー出場は10月にコルディア4WDが発売になったことに端を発している。三菱はラリー車の主流が4WDになるとの考えから、スタリオン4WDを開発、国内ラリーでもこの傾向は同じだと予想できる。そしてタイミングよくターボ付きの4WDがコルディアで発売された。

ダート走行などしたことのないコルディアのラリー車としてのポテンシャルを知るために、とりあえず羽島サバイバルランドでテストしてみる。ドライバーは山内くん、日下部くんと私の3人。しかし、あいにくの雨でランサーとのタイム比較は全くできなかった。実戦を走るのが最もよいテストだと考えるのが、今や常識で、タイミング的にオールスターラリーが最適ということになった。

第2回目のテストでベストと思われる仕様でオールスターに出る。ラリーの形式は海外ラリーと同じでSSとS Sの間は、トランスポートセクション

となり、SSのタイムで勝負が決まるというものであった。

第1SSはギャラリーステージ、昼間のステージである。かなりのハイスピード、ミッションはノーマルだが、このコースは2速のH・L切り換えでちょうどよい。途中4カ所急なコーナーがあり、ここではアンダーが出て苦しい。ステアリングを切り込む量が增えるので、コーナーの出口では大幅にスピードダウンしてしまう。ナビの田口くんと「かなりロスしているなあ」などと話をしながら、上り4キロの第1SSを終了。結果はトップに2秒遅れとのこと。テスト結果が素直に信じられなかった我々に自信を与えてくれたSSであった。

第2SSは全く同じコースを走るという。今度は急コーナーをフェイントを使って走ってみる。車も実戦テストなら、ドライビングについても実戦テスト。1カ所失敗したが、他の3カ所はキレイに決まった。タイムは1回目を5秒上まわったが、それでもトップ



福島県羽鳥、浜松で入念なテスト走行を重ねる

に4秒離されてしまった。

第3SSは舗装の上り約7キロ。車が1台やっと通れるぐらいの狭いつづら折れのコースだ。どのコーナーでもアンダーが出てしまう。コース幅が狭く、フェイントが使えないので苦しい。結果はトップに20秒ほど離された。キロ3秒である。

その後ラリーは、深い霧の中での戦いになった。第1ディビジョンを終わってサスをもう少しリヤがすべる仕様に換えることにする。

第2ディビジョンの最初のSSは約半分が霧、晴れてからは下りの比較的幅の広いコースであった。この仕様で

は下りはリヤがすべりすぎる。こままでほとんど使わなかったカウンターステアを多用するはめになった。どうも第1ディビジョンで使ったものとの中間的な仕様がベストのようだ。

第3ディビジョンでは、その仕様をテストしようと楽しみにしていたが、第2ディビジョンの途中で転落事故があり競技打ち切りとなってしまった。結果は5位。

今回の実戦テストで基本的なポテンシャルが高いことが明らかになった。後は、その煮詰めをすれば相当のレベルまでいけよう。強力な武器に磨き上げるのが、非常に楽しみである。

レポート from ナビゲーターズシート

田口 雅生(CMSC本部)

ラリー前の浜松での確認走行の結果、ランサーターボに遅れること、キロ1秒と開発がスタートしたばかり(なにしろ2度目のテスト)にしては上出来の結果で、ケンジロー選手もシヤ選手もびっくりしている。しかし実戦とテストとは違う。

11月10日“ラリーアート・コルディア4WD”はゼッケン7番、14時37分

スタートである。吉野神宮の頂上へ向かう4kmのダートコースが第1・2SS、第1SSは2秒遅れの2番手。あまりの順調なスタートにケンジロー選手共々ちょっとびっくりする。

第2SSは約1時間後にスタート、2度目のコースでもあり、さすがに腕の冴えを見せてケンジロー選手力走、5秒縮めたタイムを出した。18時07分、

いよいよナイトラリーへのスタート。まずは狭く曲がりくねった舗装路が続く第3SS、中高速向にセッティングしていたため、ちょっとアンダーが強く、ケンジロー選手も苦労している。

次の第4SSを順調なタイムで終了、高野山スカイラインを龍神温泉へ下る。

龍神温泉から再び高野山スカイラインの頂上サービスポイントまでのダート30kmで第5、第6SSが行なわれる。やっとサービスポイントに到着。第2ステージのスタート時間を計算して、びっくり、25分のレストタイムしかない。

それでもラリーキットのテストを兼ねて参加した今回のラリー、無理を承知でサスペンションの仕様変更を始める。時間は刻々と過ぎていき、第7SSのスタート地点に着いた時は5分遅れとなった。第7、8と高野山スカイラインから十津川町へ下る国有林の中の林道約30kmのコースをこなして第9SS白谷林道へ向かう。タイムオーバーを承知で決行したサスペンション変更で、狭いコースでのアンダーも少な

くなり、走りやすくなったとケンジロー選手も好調にコルディア4WDを走らせている。この第9SSも舗装の上りのコースであるが、さっきの第3SSとは違ってかわって快調に走り続ける。第10SSも同じようなくねくねコース、ところどころにダートが残っている。あとひとつ第11SSを終われば第2ステージは終了、サービスへ向かうのである。ところがこの第11SSは霧が深いためキャンセルとなり、まっすぐ第2サービスへ向かう。

池原ダムの第2サービスへ着くと、なんだか様子がおかしい、途中の第8SSで転落事故が発生、ここで打ち切りになるということだった。

翌11月11日、12時よりVターティ形式の表彰式。競技長から途中打ち切りのお詫びと、転落したクルーの無事が告げられ一同ホッとす。我々、ラリーアート・コルディア4WDは初参加ながら、堂々の5位入賞!!

'85シリーズのコルディア4WDに注目したい。

